

国際共同制作展開事例について 「Satria Garuda BIMAX」

伊藤忠商事(株)
通信・モバイルビジネス部
荒巻 裕史

BIMAプロジェクト概要

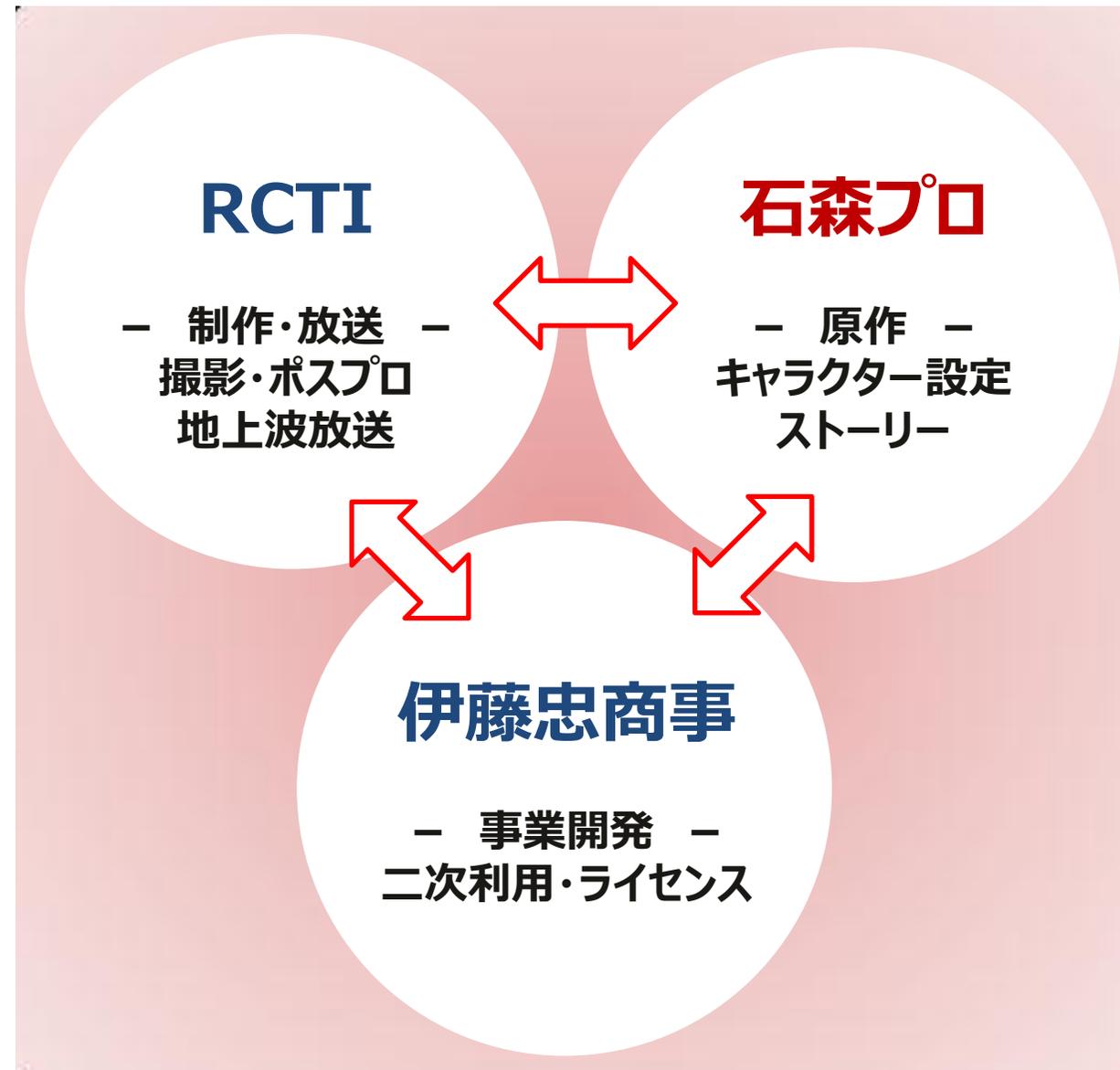
目指したものは、日本のキャラクターライセンスビジネスの輸出

- 日尼共同製作「BIMA Satria Garuda」を2013年6月より放送開始
- 現地の視聴者に受け入れられ、続編シリーズ「Satria Garuda BIMA-X」を製作・放送中



© All rights reserved 2014 RCTI / ISHIMORI Production Inc.

プロジェクト背景



○インドネシア側の課題

向上したドラマ制作力の活用
子供向け優良コンテンツの確保
広告収入依存からの脱却

○日本側の課題

継続的なコンテンツ発信
強力な海外プロモーション
海外コンテンツビジネスの構築

「特撮番組の共同制作」

- ・各社の強みを活かした事業体制
- ・波及効果と発展性の共有
- ・相互理解による文化融合

周辺産業との連携と効果

○ 日系メーカー等の商品化・販促タイアップ

- －番組連動商品販売
- －プロダクトプレイスメント

○ 日本アーティストの楽曲採用

- －日本語のEDテーマ

○ 日本人撮影スタッフの登用

- －技術指導、演出ノウハウ活用

○ 日本人ゲストの特別出演

- －演出調整
- －同局他番組とのプロモーション連携

○ クールジャパン関連イベントへの出演協力

- －出演者アレンジ
- －集客プロモーション



© All rights reserved 2014 RCTI / ISHIMORI Production Inc.

課題および政府支援への提言

< 政府のコンテンツ支援について >

- 政府支援については、コンテンツ制作、放送枠の確保、ローカライズ、プロモーション等多岐に渡り、多くのコンテンツ関連企業がこれまで以上に海外進出を検討するきっかけとなっていると実感。
- こうした施策を一過性で終わらせない様、コンテンツによって海外で稼ぐというビジネスモデルのイメージを関連業界と具体的に共有し、長期的な視点で計画的かつ戦略的に政策へ落とし込むことを期待。

< 放送コンテンツの海外展開について >

- 本プロジェクト継続の根底にあるのは、インドネシアの高視聴率に裏付けられた人気であるが、パートナーの課題に対応するコンテンツと事業モデルが現地での反響の拡がりに大きく影響。
- コンテンツの進出は周辺産業の市場参入の重要なカギであり、コンテンツ継続においては同様に周辺産業との連携が重要なカギ。
- コンテンツ制作については、当初から海外における人気を意識した番組制作に対する支援を、関連する助成金については、海外で放送されている放送コンテンツの積極的な活用に対する支援に期待。
- コンテンツ制作の担い手と周辺産業の進出は相互に影響し合うとの前提の下、それぞれの事業の担い手が中長期的なビジョンを共有できるような支援の重点的な検討が重要。